

第1回 総合計画推進市民会議 会議録

開催日時	平成21年11月5日（木） 19時00分～21時15分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンターホール
出席状況 (敬称略)	(委員) 中川、井上、岩本、大谷、岡田、来住、佐伯、竹内、富永、水島、吉田 (欠席: 天野、小川、亀岡、西山、橋間) (オブザーバー) 来住市長 (事務局) 藤原、黒崎、長井、板場
会議の概要	<p>会議次第に従い、協議した内容は、以下のとおり。</p> <p>○中川座長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の第1回目は半年経過したこの日となったが、報告に対して委員には忌憚のない御意見をいただきたい。・本日来ていただいている来住市長は先日2期目の当選も果たされた。今後も懸命に努めていただくことを願っている。 <p>○来住市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none">・平成17年に合併し、4年経ち任期1期目が過ぎた。この間に総合計画を策定し、19年度から運用を開始しており、これに基づき3か年の行動計画も策定している。しかし計画していたことでも、茜が丘複合整備施設や新産業導入のように道半ばになっているものもある。厳しい状況の中であるが、経済の建て直し、雇用の確保が非常に重要であると認識している。・11月末には150億円を投じた西脇病院がいよいよグランドオープンする。浸水対策にも道筋を付けてきたし、徐々に成果が上がってきたのではないかと考えている。・もう1期市政を担わしていただくこととなったが、市民の皆さんとのパートナーシップをきちんと作っていくことが大切であると考えている。今後も皆さんには御協力また御指導をお願いしたい。 <p>○議事1 平成20年度「まちづくり市民アンケート」の結果について</p> <ul style="list-style-type: none">・市民アンケートの結果概要について事務局より説明 →特に意見なし。 <p>○議事2 総合計画掲載事業等の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでの総合計画掲載事業の進捗・達成状況について事務局より説明 (委員) ・地域振興基金の概要について、説明願いたい。 (事務局) ・合併団体においては、地域振興やまちづくり活動を行う場合、合併特例債を利用した基金を造成することができる。積立額の上限が合併団体の規模によって決まっており、本市の場合で13億6千万円余りである。これを3年間で積み立てていこうというもので、その基金の運用利子を使って、現在一般財源を充当している「地区からのまちづくり事業」の一部に充てていきたいと考えている。合併特例債は借金にはなるが、事業費全体の95%に充当できることができ

会議の概要（続き）

そのうち7割が国からの交付税として後年度に返ってくる非常に有利な財源である。

(座 長) ・市の元手が3分の1で基金を造成できるということになる。

○議事3 今年度の行動計画の策定方針について

・今年度の行動計画の策定方針・考え方を事務局より説明

(座 長) ・計画の序列でいうと総合計画が2段構成になっており、議会の議決が必要な基本構想とそれを受けた基本計画がある。基本計画は前期と後期に分かれており、その前期基本計画を受けた結果の行動計画がある。その行動計画が説明にあったような形で策定されるということである。

・行動計画に記載のない事業については、特段の外部的要因がない限り、予算要求を認めないという原則としている。第一次案としてはその時点で確定するが、例えば国が緊急雇用対策事業を実施するとかという場合には、それを踏まえて最小限の修正を行うことの説明があった。こうした厳しい原則に庁内はまだ慣れていないということで抵抗もあるかもしれないということだが、そういう計画行政に切り替えていこうという動きである。

○議事4 事務事業評価の実施及び活用について

・今年度から本格実施した事務事業評価の結果と活用方法等について事務局より説明

(委 員) ・現在、国で進めている事業仕分けほど早急でないけど、西脇市でも実施しているということか。

(事務局) ・事業仕分けの場合は、実際に見学したことがあるが、1つの事業につき半時間ほどの間に、職員が説明し、民間人が判定するものである。西脇市の事務事業評価は、一次評価が担当課、二次評価が庁内若手・中堅職員ということで、ともに職員が評価している。

(委 員) ・二次評価を行う「シコト改善リーダー」は何人いて、どれくらいの年齢構成となっているのか。

(事務局) ・14名で係長級または主任級となっており、年齢は45歳から35歳くらいである。

(委 員) ・推薦、公募両方あわせてそうになっているのか。

(事務局) ・そのとおりである。

(委 員) ・評価結果としては、二次評価を尊重するということになるのか。

(事務局) ・二次評価を尊重し、予算措置や事務改善などに反映させていくこととなる。

(委 員) ・例えば、コミュニティバスの運行などは福祉に係る問題なので、若い職員だけが評価にかかわることに危惧がある。もう少し高齢者の視点を持てる職員を入れて判定することも必要でないかと思う。採算が合わないが福祉的な視点で実施するというので積み上げてきた事業だと思うが、そういう点はどのようにして判断するのか。

(事務局) ・採算がないので、すぐに事業を廃止するというものではない。推移を見ながら、乗車人員の増加に向けた改善の努力を続け、コスト削減につなげていくことが必要だということが評価結果である。実際に資料を見ていただくと分かるが、休止・廃止と判定された事業はほとんどない。ほとんどが事業内容を見直しという結果になっており、今後の事業実施に当たっては評価内容を踏まえた対応や改善

会議の概要（続き）

をしていこうという趣旨である。

- (座長) ・ここで議題1から4までを終了したが、委員のみなさんからここまでのことで、1人ずつ意見をいただきたい。
- (委員) ・コミバスは路線バスの廃止に伴い、10月から比延地区でも走ったが、これをずっと続けていくのは難しいと考えている。代替案を早い段階で次のステップに向けて考えていかれた方がよいのではないかと思う。
- ・地域振興基金に関連して、現在「地区からのまちづくり事業」で700万円余りが予算措置されているが、これが本当に有効なのかどうか。当初から疑問を持っている部分があるのだが、今までなら自治会でお金を出していた部分に、このお金を当てているだけであれば、それは問題である。
 - ・今年土づくりセンターが整備されたが、今後どのように活用されていくのかが見えない。
- (委員) ・事務事業評価票を見て、説明を聞くと有効な取組であると感じている。この流れを続けていきながら、市役所の中だけでなく、外部からの視点も取り入れるような方向に広げていく方法を考えていってもらいたい。
- (委員) ・今日は自分の経験した小さな成功体験をお話したい。総合計画の中でも播州織の振興やTMOの活動支援が掲載されているが、実は先日会社関係の方で西脇に訪問したいという方があった。30代半ばの独身女性で可処分所得も多い方で、私の主人はどこに連れて行くかということで困っていた。そこで自分でプランを立て、中心市街地の情報未来館や播州織工房館などを案内したら大好評であった。こうしたターゲットを絞った観光などの情報発信を明確に訴えかけていくことが必要だと思う。そういったモデルコースなども組んでホームページに掲載すればと思う。
- ・事務事業評価については大変興味があり、資料をよく読んで勉強していきたい。
- (委員) ・各項目の説明を聞いていると、少しずつ進歩していているように思う。こうした進捗状況は議会でも確認されるべきだし、もっと市民の目に見えるようにしてもらいたい。
- ・市内でよい所というのは住んでいてもわからないこともある。そうした啓発は何度もしていくことが重要だと感じた。
- (委員) ・少子高齢化が進んできているのを身近に感じている。認知症や介護が必要な方も多くなる中で、きめ細やかな対応というのが必要だと思う。しかし一方で、地域社会の意識も高まっているので、そうした意識を取り込んだ活動ができるような仕組みを進めてもらえればと思う。
- ・西脇病院がリニューアルしたので、医療以外の施設のケアなどにはボランティアの活動協力もできるのではないかと思う。市民みんなで守っていくことが大事。
- (委員) ・資料にあるアンケート結果を見ると、身近な支え合いの輪に参加すべきと感じる市民が多いけれども、実際に活動している人は少ないのがわかる。この差をどのように埋めていくのが重要であると思っている。ここで私が思ったのは、市民の参画基盤が整っているのか、「市民主役のふるさと運営」という理念は根付いているのかということ。市と市民の信頼関係、パートナーシップが確立されているのか、アンケートの調査結果によってこうした問題点が浮かび上がってきたと思う。

会議の概要（続き）

- ・税金の使途についても、市民に知られていないとのアンケート結果も出ているが、こうしたことを見ると、行政が情報提供方法についてより一層努力していくことが重要でないかと考えている。
 - ・実施にまちづくりに参画し、活動を展開していく市民が多くなっていくのを望んでいる。
- (委員) ・公立保育園の民営化については、もう既に来年度からと決まっているが、話し合いを進めていく中で、園児の保護者である当事者への説明が遅く、不足していたのではないと思う。それで反対署名活動とかも起こっていた。保育所の統合・民営化だけの話だけでなく、市の財政全体からの説明があれば、ここまでこじれなかったのではないと思う。
- ・こういったことを踏まえて、幼保一元化も今年から本格的に検討されるようであるが、学識経験者の意見だけでなく、保護者など当事者の意見も早い段階から聞いて検討していくようにしてもらいたい。
- (委員) ・来年から小学校の教員になる予定。大学を通じて小学生の特別支援にも取り組んできたが、学生は本当に一生懸命にやっている。こうしたことを保護者にもしっかり理解してほしいと思う。
- ・教育への関心は高いと思うので、市民に特色ある教育をもっとアピールしていてももらえればと思う。
- (委員) ・質問になるが、双葉小学校の統廃合問題については現在どのように考えられているのか。比延小学校との統合はあるのか。
- ・消防団については、黒田庄地区の3分団の統合はされるようだが、若者の減少が進む中、旧西脇市の分団の統合や見直しの方向性について聞きたい。
 - ・年度末に道路事業が集中しているように感じるが、予算が余っているので実施しているのか。そのような印象を受けるが役所の風土としてそのようなことがあるのか。
- (委員) ・ここにあるさまざまな問題は立場上ほとんど何らかの形で首を突っ込んでいるので大変な事業ばかりであると本当に思う。西脇病院が11月末にグランドオープンするわけだが、市民として区長会でもどのように病院への協力ができるのかということも現在病院と話し合いながら考えている。
- (座長) ・質問として出ていたものもあったが、それについては答えてもらいたい。
- (市長) ・委員から出ていた意見を大体取りまとめたので、私の思いを言わせていただきたいと思う。
- ・コミバスは今、地区の皆さんが決められた中で実証運行をやっているもので、その中で見直していく必要があると考えている。
 - ・地域振興基金を使ったまちづくり事業についてであるが、現在審査会を開いてその使途を決めているが、私どものねらいも自治会が従来してきた事業よりも本当にまちづくり活動に役立っていくものに充当していきたいと思っており、そういうものには全額支援していきたいと思っている。その中で事務局のレベルアップを図っていくことも必要であり、今は800万円くらいのお金を充当しているが、きちんとした支援をしていく上で、市民税の5%、約6千万円までの活動支援はかまわないといっているが、そこまではとても追いついていない状況である。

会議の概要（続き）

- ・土づくりセンターの活用については、有機の里づくりの拠点となる施設で、長年黒田庄町の中で検討されてきたものである。3年程度経過してくると、農地の有機土壌化が進んでくるので、農業振興の役割を果たしていくものとなる。思いは広がっていくわけであるが、これを地域活性化していくシステムにつなげていくことが大きな課題と思っている。地産地消を進め、農業と商業の連携、農産物を消費できるようなコミュニティビジネスを起こせないかというようなことも考えている。
- ・事務事業評価に市民も参画してはという意見であるが、昨年二次評価はコンサルが行ったが、思いがある事業について自分たちで評価する能力を養うことが大切であるとの思いから、シゴト改善リーダーを指名した。部課長にも若手職員のシゴト改善リーダーの評価結果を尊重するように指示している。
- ・「西脇市には何も無い」というのはふるさと意識がない人ではないか。この地域にかかわってしっかり生活している人はきちんとこのまちの自慢できるものを持っていると思う。観光のモデルコースについても、地域の中で作ってもらい、うまくPRできるようにしていきたい。
- ・市民の目から市役所の仕事あまり見えていないという意見であったが、確かに市役所はPRするのが下手である。ホームページでも情報を流しているのだが、関心のある人には見ていただいているが、今後も多くの人に情報提供できるように努力していく。
- ・地域福祉の推進も「市民主役のふるさと運営」のテーマのひとつであるが、上手く進んでいないと思う。計画は策定したが、私の思いとは異なり、実際の動きは伴っていないとの思いを持っている。制度的なきめ細かな対応は行政が行っていくこととなるが、実際の行動になればご近所の体制や地域の体制が大きな力となっていく。
- ・参画意識が高いが、実際の行動割合が低いというのは言われるとおり。「市民主役のふるさと運営」は地区まちづくり活動の支援、地域福祉の推進、地域教育力の向上が3本柱だが、市民の方の参画が得られやすいテーマということで設定したが、それを推進していくためのシステムや制度を整えていく必要がある。どのような部分でどのような形で参画していけるかということを考えていく。気持ちがあるけれど、何をすればいいのか分からない人々もいることは事実である。
- ・税の使途についての市民の実感については、なぜこういう結果になったのかももう一度しっかりと追跡調査していきたい。一般的に行政は無駄使いをすることで思われていた場合、このような結果になるが、具体的に内容を探り、そのように思われているのなら次の一手を打つことが必要である。
- ・保育所の民営化については、地区の区長会との協議を先行して調整してきたため、当事者である保護者への話が後回しになって申し訳なく思っている。幼保一元化についても大事な問題であり、私の思いとしては西脇市では保育園の待機児童もいない中で、保育園であろうと幼稚園であろうと子どもたちが就学前教育を同じように受けられるような西脇市流の子ども支

会議の概要（続き）

援の体制を考えていくことが大事であると考えている。

- ・特別支援教育のことで具体的に言われたのはまったくそのとおりであるので、そのようにアピールしていきたいと思う。
- ・双葉小学校については、当初は合併も視野に入れて地域とも協議をしたが、小規模校として残し、市内どこからも受け入れる特別認定校としており、現在のところ合併は考えていない。
- ・消防の再編は2つの問題があり、消防無線のデジタル化といった問題もあり、消防本部の統合を近隣市町と検討・調整を進めている。地域の消防力である消防団については、基本は現員を守るということにしていきたい。
- ・年度末の道路工事については西脇市については基本的に行っていない。緊急性がある場合を除き実施せず予算を残してもいいと10年以上前から言っている。ただし、昨年度末は経済対策の意味もあり、多かったのではないかなと思う。
- ・病院については、入院患者のために市民の方に院内コンサートを実施してもらったりしている。区長会としてもグループ活動のようなもので支援してもらえればという思いを持っている。医師不足の中、西脇病院の医師もかなり疲弊しているのが実態なので、コンビニ診療を減らしていただくなどの協力をしていただければと思う。
- ・それぞれ委員からは貴重な意見をいただいたので、原局に伝え、反映できるようにしていきたい。

(委員) ・アンケート結果などから見ると、自分の足下にある問題については関心があるが、文化とか交流とかといった問題には意識が低いと感じる。西脇市では時間的・経済的な余裕がない方が多いように感じるので、参画できる人が少ないのではないかなと思う。以前から議会はインターネットではライブ中継されているが、録画機能があればと思う。そうすれば少しでも議会の状況がわかるのではないかな。市のホームページの見直しを進められていると思うが、市民の方に市政に興味を持ってもらうようにするには、そのようなことも検討してもらいたい。

(市長) ・インターネットによる生中継はしているが、議会で議会改革特別委員会が組織されており、その中で録画機能の追加や委員会の中継などが議論されている。そこで取りまとめられた内容を尊重すると議会側には伝えている。

(座長) ・市長がコメントされているので、私の方で取りまとめることはないが、1人の委員として少し述べたい。コミュニティバスについてはバス会社に委託するという方式に限界を感じている。むしろ地元の人々のボランティア運送というものを考えていくことも必要であると考えている。例えば、神戸市では「ちょっとカー」という名前でやっており、そういうふうな考え方もあるのではないかなと思う。

・事務事業評価については、市長の答弁でなるほどと思ったのは、職員に評価能力を養わせる、評価を体験させるということ、このことはとても良いことだと思う。同じ行政職員で評価がこれ程異なるというのは、他人の眼で見ることが重要であるということ。委員からの意見もあったが、これに外部からの市民の評価を加えるということももったもなことであると思う。評価には効率性の評価、取捨選択の評価、政治的判断の評価などいろいろなランクがあり、これを峻別する必要があるのではないかな。行政が実施しているのは、あくまでも効率性と経済性のものであるので、議会や市民の判断を要するようなものに職員だけが判断するの

会議の概要（続き）

は僭越ではないかと思う。行政職員だけで勝手に進めるということで疑念が湧きかねないので、そこを市民もともに責任を担っていかなければならないのではと思う。

- ・参画意識と行動の落差の問題については、私が外部の者としての眼からみれば、意識が84%、行動が23%というのは驚異的な数字。現に参画しているのが10%というのはむしろ異常なまでの高さ。私の住むまちでは実際の行動者は1%ぐらいではないか。そういう点では西脇市は行動を起こそうと思えば、いつでも起こすことができるまちであり、逆に私は可能性を感じたくらいで、悲観はしていない。
- ・西脇病院の話聞いて出てきたパートナーシップの考え方。みんなで作った西脇病院を地域全体で支えていこうという姿勢、そういう市民運動をおこしていくことで、患者さんにとってもよい病院になっていくのではないかと思う。
- ・消防・救急に関しては、住民が協力しなければいけないのは、救急車をタクシー代わりに使いすぎているということ。こういった適正利用の啓発は区長会などでも行っていく必要がある。またAEDを使える人口を増やしていくことも重要である。
- ・これはアイデアではあるが、現在の都市計画法でまちづくりを進めるとまちが死んでしまうことになる。都市計画法を無視したまちの保存というものを行政がどのように決断していくかということが、今後重要である。近江八幡市ではまちなみ保存の修景整備に当たって消防法の要件を適用せず、住民全体で手動式のポンプを導入する防火体制を構築することで現在の区画を守っていった。都市計画法に基づき家屋の前面後退をさせたために、よいまちなみが失われた事例もある。こうしたまちづくりを進めようとするれば、行政とともに、市民運動で意識を高めしていくことが必要になってくるであろう。

○議事5 市長公約及び今後の主要事業について

・市長より2期目の市政運営に当たっての方針や総合計画の達成目標などについて説明

(市長) ・選挙前にこういう思いで2期目の市政運営に当たりたいというものを取りまとめた。具体的なものについては資料にあるとおりであるのでご覧いただければと思うが、前段となる部分についてお話ししたい。

- ・1期目の公約に掲げたものでも道半ばのものがある。例えば茜が丘の複合施設整備や幼保一元化などがそうである。2期目ではこうしたものを完結させたいと思っている。複合施設については、この地区にないコミュニティセンター機能とともに、子育て支援、母子支援などの機能を全部集めた一元的な拠点施設にしていきたいと考えている。
- ・それから1期目の4年間で想定していなかった事項が出てきている。例えば土づくりセンターは作ったが、これで完結することなく、農家の人たちが経済的に潤うような仕組みをこれから作っていかなければならない。地域経済の疲弊が進む中で、市外の商業資金だけが動いているように見えるが、地域に実りのあるような根本的な方策を固めていく必要があると感じている。
- ・西脇ならではのまちづくりを進めていかなければと思うが、その中で地域力・市民力を高めていくためには、一緒に動ける市民を増やしていかなければいけないと

会議の概要（続き）

思う。これから先誰が市長になろうともこれは必要なことで、こうした力を地域の中に着実に根付かせておかないといけないと思う。この4年間のなかで実践していきたいと強く思い、立候補し、当選させていただいた。

- 行政改革大綱を1期目に作り、実践していく中で、8億6千万円あまりのコスト削減につながったが、そのうち6億円は職員の人件費の削減である。しかし、病院については巨額の繰出金を出しており、病院経営の健全化に努めていかなければいけないと考えている。病病連携、病診連携なども進め、医師の確保にも一生懸命努めていかなければならないと考えている。そして北播磨北部地域の拠点病院としてしっかりとした役割を果たしていかなければならないと考えている。
- 平成24年を迎えると、河川改修や橋梁の架け替えなどでまちの様子が大きく変わる。西脇北バイパスや県道黒田庄多井田線も完成し、市内の交通体系も変わる。また西脇道路として国道427号のルート変更にも着手し、中心市街地に多可町方面に抜ける国道が走るようになる。
- 行革大綱もさらに推進し、少数精鋭で市民の役に立つ市役所になれるように進めていく。
- 前回の公約とは違い、具体的に何に取り組んでいくのかを示したつもりなので、またお読みいただきたいと思う。

(座長) ・ただいまの市長の2期目の市政運営に当たっての思いを聞かせてもらったわけだが、委員から一言ずつ発言をいただければと思う。

(委員) ・あれもやりたい、これもやりたいということもあろうが、大変だが頑張ってもらいたい。

(委員) ・大変だろうが4年間頑張っていたきたい。

(委員) ・国道175号バイパスは通勤時に使っているが、混雑が激しいので早く開通してほしいと思う。

(委員) ・パートナーシップというスローガンがわかりやすいので、市民と連携して政策に取り組んでいってもらいたい。

(委員) ・市民の声をたくさん聞いていただき、よりよい市になるようにしてもらいたい。

(委員) ・アンケートでもあるように税金の使途はわからないという人が多いので、市民が分かるように情報提供いただきたい。広報でも民生費や総務費と書かれても分からない人も多いと思うので載せ方に工夫が必要と思う。

(委員) ・地域の中から、具体的なボランティア活動などをどのように進めていくのか、具体的ななかかわりをどうするのかというのをもう少し絞って考える機会があればいいと思う。

(委員) ・市長の素晴らしい意気込みを聞いたが、パートナーシップということで、市民もいろんな面でもっと協力していくことが必要であると思った。

(委員) ・こういう会議でも女性が少ない。市議会議員も女性がいない。せっかくこの会議にも参加しているので私自身がこういう会議の情報を少しでも発信していければいいと考えている。

(委員) ・実際に行動している人は10%ということであるが、なかなか見えてこないのも事実。広報や回覧板をもっと上手く活用していくことも大事だと思う。

会議の概要（続き）

- (委員) ・いろいろな話を聞かせていただいたが、土づくりセンターの話を知っていると、地区で取り組んでいるキクイモづくりにもつなげていくことができなにかと思った。地区のコミセン整備を市にさせていただき1年を経たが、自分たちが自立していくことが重要。自分たちがしていきたいことを自分たちが立ち上げてやっていくこと、少なくとも私の住む地区ではそのようにやっていきたいと思った。先ほどの神戸市の「ちょっとカー」の話を知って、コミバス運営の今後に光がさしてきたようにも思えた。コミュニティビジネスにつなげていければと思ったので、今日は貴重な話を聞かせてもらった。
- (座長) ・まとめにはならないが、総合計画にも市長の公約にも入っているが、自治基本条例を策定するということがスタートするように思う。そうなればあらためて、この委員会もその方向に沿った役割がひとつ増えてくるように思う。そこで私自身が今後の課題になるようなことを思い述べると、西脇市は住民の自治組織がしっかりしているので、こうした組織の世話役をどのように支援していくのか、どのように上手く世代交代をさせていくのかが課題になる。それから個人が結集しているNPO活動、特に少数市民の課題を解決するような活動をしている団体を大事にしていかなければならない。それらをあわせ地域自治の協議会にどのように連携させていくのかということが課題になってきているのではないかと。つまり、これを条例上の公共的団体として位置付けるのか、あるいは連絡組織程度でとどめておくのか、そのことも決断の時期に来ており、市民を交えて協議していかなければならないと思う。
- ・住民自治には、タテ・ヨコ・ナナメの3つがあると思っている。ヨコの住民自治は地域社会を支える住民自治、自治会・町内会などがあたるもの。タテの住民自治は障害者や外国人などの少数者の暮らしをどのように支えていくのか、共生していくのかというもの。この2つが水と油のように対立構造になっている地域が非常に多い。そしてナナメの住民自治というのは、個人住民が行政に参画していくというもので、地方自治法の規定にあるようなものを含め、もっとオプションとして条例などで位置付けた仕組みのことである。こういうオプション部分については議論していく必要があるので、あらためて西脇市の住民自治の仕組みをどのように補強・補完していくのかという検討が必要でないかと思う。とはいえ、さきほどから話を聞き、またデータの的にも見ると、私は全然心配していない。これだけ底力があればいとも簡単に乗り越えられるのではないかと考えている。
 - ・以上を持って本日予定していた議事を終了する。事務局からその他として連絡事項あればどうぞ。
- (事務局) ・もう少し早い時期に第1回目を開催する予定であったが、この時期となったことをお詫びする。そのため、今年度は年間2回の会議となる。次回については2月下旬を予定しており、次回は次年度の行動計画の内容などについて説明するので、よろしく願いたい。
- (座長) ・他に何か委員から質問はないか。それでは本日の会議は終了する。

○次回の会議について（予定）

- ・日時 平成22年2月下旬
- ・場所 生涯学習まちづくりセンターホール

第2回 総合計画推進市民会議 会議録

開催日時	平成22年2月25日（木） 19時00分～20時45分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンターホール
出席状況 (敬称略)	(委員) 中川、井上、岩本、大谷、岡田、亀岡、来住、佐伯、竹内、 富永、西山、水島、吉田 (欠席: 小川、佐伯、橋間) (オブザーバー) 来住市長 (事務局) 藤原部長、黒崎課長、長井補佐、板場主任
会議の概要	
会議次第に従い、協議した内容は、以下のとおり。	
○中川座長あいさつ	
・今年度の第2回目の会議である。時間もないので早速オブザーバーとして参加していただいている来住市長よりあいさつ願いたい。	
○来住市長あいさつ	
・暖かい日々が続いているので、家の前にある梅の花が先日まで何輪かしか咲いていなかったが、今日は半分ほど咲いていた。	
・夜分にもかかわらず、委員には出席いただき大変ありがたく思う。総合計画は市民の思いを結集したものであるので、市政をあずかるものとして、市民の皆さんとの契約書であると認識している。本日配布している「行動計画」は、計画の進め方を示した方法論となるものである。この中には3月議会でも示す施政方針を踏まえた市政経営の基本姿勢もあるので、またご覧いただきたい。	
・人口減少が続く、地域経済も低迷する時代の中、都市の経営はますます厳しくなる。そうした中、市民の皆さんとのパートナーシップで都市経営をしていかなければならないと考えている。	
・今回の会議で委員任期の2年を迎えるが、引き続きやっていただければという思いである。限られた時間であるが、忌憚のない御意見をいただきたい。	
○議事1 平成21年度「まちづくり市民アンケート」の実施について	
・市民アンケートの実施概要について事務局より説明 →特に意見なし。	
○議事2 平成22年度の主要事業及び行動計画について	
・行動計画に基づく来年度の主要事業及び予算案について事務局より説明	
(委員) ・子育て学習センターの増設事業として、比延地区のコミセンでの開催を予定されているようであるが、具体的な事業イメージを教えてください。	
(市長) ・子育て学習センターは現在西脇地区と黒田庄地区の2箇所にあるが、その職員が比延地区のコミュニティセンターに週3日出向き、市内3箇所目のセンターとして事業を行うものである。当初は違う場所での開設を検討していたが、地域のまちづくり協議会との連携などを考慮し、比延地区コミセンでの実施が適当であると考えた。	

会議の概要（続き）

- (委員) ・イメージとしては、コミセンのスペースを貸して週3回実施するというものか。また、コミセンで開催している比延マミーなどの教室の延長線上にあるものと考えてよいのか。
- (市長) ・イメージとしては、そのとおりである。ただし、正式に市がセンターとして開設するので、今のグループ活動の延長とは別に市の事業として実施するものである。できれば今後も地区ごとに増やしていきたいと考えている。

○議事3 自治基本条例の制定について

- ・総合計画の答申を踏まえたこれまでの自治基本条例制定に向けた動きと今後のスケジュール等について事務局より説明
- (市長) ・制定に当たってのプロセスを大事にして進めていかなければならないと考えている。
- (委員) ・例えば、説明資料にある自治基本条例の内容に含まれる「市民参画の推進・地域コミュニティの尊重」という項目について、この部分の内容が充実した条例ということになれば、来年度実施が予定されている「地区別学習会・意見交換会の開催」が非常に重要になってくると思う。そのため、この部分を大事に取り組んでいってほしい。
- (事務局) ・市民が自治基本条例は必要であるという思いを持っていただかないと、絵に描いた餅になってしまう。先ほど市長が述べたように策定の過程が重要であるので、地区別学習会や意見交換会を十分に行い、市の職員が単に作ったということにならないようにしていきたい。
- ・市民の皆さんが本当に必要であると思える条例であることが重要である。条例の内容が市民の皆さんにも噛み砕いて分かりやすいものであり、市民の皆さん自身が実現したいまちづくり活動などを市が責任を持って約束する、というような条例の内容にしていくことが一番大事と考えている。そのようなことを十分考慮しながら策定を進めていきたい。

○議事4 定住自立圏構想の推進について

- ・1月に中心市宣言を行った定住自立圏構想の取組状況と今後の動きについて事務局より説明
- (座長) ・この構想に取り組むことで国からの特別交付税が交付されるということである。
- (委員) ・西脇市と多可郡という枠組みでさまざまな活動があるが、単独の市町でなく合同で取り組んでいる活動もある。こうしたものも活動の実態に即して支援してもらうことが可能となるのか。どういう内容をバックアップするというのは別にして、自治体の区域が違うので活動の支援がないことも感じていたことものが、この構想の取組で解消されるというようなイメージでよいのか。
- (事務局) ・どういう内容に取り組むかは別にして、基本的には委員の言われたように、自治体の枠組みが別であったため、取り組めなかったものを自治体間で協議して、連携や支援をしていこうというものである。また、行政間の取組だけでなく、民間の取組への支援についても協議していく。
- (委員) ・定住自立圏構想に取り組むことで、どのくらいの交付金がもらえるのか。
- (事務局) ・構想に取り組む、ビジョンを策定してから交付される包括的な事務費として特別交付税が、基本として中心市に年間4千万円、周辺市町に1千万円である。詳細

会議の概要（続き）

- な計算式で算定されるが、本市の場合は3千6百万円程度でないかと思われる。
- (委員) ・加東市がこの構想に加わらなかった理由は。
- (事務局) ・さまざまな理由が考えられるが、この構想の推進に当たって西脇市では市長からの指示は地域医療や西脇病院の問題を考えると、加東市とともに取り組む方がよいとの考えであった。そうしたことから、加東市ともこの構想が打ち出された早い段階から相当協議も重ねてきたが、加東市はメリットが不透明な段階では最終的に取り組むことはできないとの判断であった。
- ・本市の考え方としては、総務省が推奨する施策であるので、早い段階で取り組む方が何らかの制度的なメリットがあるのではないかと判断した。総務省も市町村から直接の声を吸い上げ、支援内容を考えていき、使いやすい制度にしていきたいという説明であったので、本市では積極的に取り組むことでメリットもあると考えた。
- (委員) ・中心市が決められており、市の面子もあると思うが。
- (事務局) ・中心市と周辺市町村という言葉で抵抗があるのも事実で、総務省にもそうした質問が相次いでいるとのことであった。ただ加東市との協議においては、加東市を周辺市町に位置付けるつもりはなく、西脇市とともに2市で中心市になろうという提案をした。総務省にもそうした場合でも中心市として認定されるのかを県を通じて問い合わせ、認定されるとの回答を得た。
- ・加東市は昼間人口が夜間人口を2千人以上上回っているが、人口要件は4万人にわずかに届かない程度であり、実態的には中心市としての要件を備えている。そうしたことから、西脇市単独で中心市になろうとして協議を持ちかけたわけではない。しかし、現段階では見送るという決断であった。
- ・定住自立圏の枠組みは固定ではなく、後からでも加わるができる。しかし、その場合は周辺市として加わることになる。

○その他 次年度以降の総合計画推進市民会議について

- ・事務局より2年の任期満了に伴い、現在の委員構成での市民会議は最後となることを報告。また、次年度については、あらためて委員の依頼・公募等を行い、市民会議を開催することをあわせて報告
- (委員) ・少し趣旨が違うかもしれないが、今後自治基本条例の制定について早急に取り組むという説明があったが、それと総合計画の推進との関係が少し分かりづらいので、教えていただきたい。
- (座長) ・総合計画推進市民会議の事務局の位置付けと自治基本条例の制定の委員会の位置付けが違うのか、平行なのか、相互に関連しあうのかということではないか。
- (事務局) ・基本的には別々になる。総合計画の中で実現すべき大きな施策として自治基本条例の制定はあげられている。そういう意味では計画の推進の方が大きなテーマで、自治基本条例の制定というのは、計画の中にある具体のテーマになる。ただし、自治基本条例の制定は、総合計画の中でも特に大きな課題であるので、総合計画推進市民会議の中では進捗状況の報告や、場合によっては自治基本条例に関する意見を聴いていくということにはなろうと考えている。
- (座長) ・委員の聴きたかったことは、それでよいか。それとも総合計画と自治基本条例のどちらが上位にあるのかということか。

会議の概要（続き）

- (委員) ・どちらが上位にあるということではないが、総合計画市民会議がどのように自治基本条例に関わっていけばいいのかが不明であった。
- (座長) ・おそらく総合計画推進市民会議では、自治基本条例の進捗状況の報告ということになるであろう。そうした中で、条例の制定が全然進んでいないようであれば、市民会議としては叱咤しないとイケない。
- (委員) ・事務局から来年度以降の市民会議のあり方の説明があったが、個人的には立場上さまざまな会議には出させていただいているので、おおよその概要というのとは分かる。しかし、2年の任期では、少し内容が分かるようになったぐらいではないかと思う。全員新たな委員ではじめることは難しいのではないかと、せめて2期か3期務めないと分からないことも多いのではないかとと思うが、そのことについては、どのように考えているのか。
- (事務局) ・委員の再任を妨げる規定もないので、委員の意見も踏まえながら、考えていきたい。ぜひともお願いしたい面もあるが、実は自治基本条例の策定の市民委員会にも、ここの委員の中から参加して欲しいという依頼もあるようなので、その兼ね合いも出てくると思う。次期の市民会議を全員新メンバーでというようなことは、今のところ事務局としても想定していないので、何人かの方には引き続きお願いしたいと考えている。
- (座長) ・意思を事務局に伝えてもらえればと思う。自治基本条例の制定委員会の方に参加したいという意思も含めて。
- (委員) ・座長は代わらないようお願いしたい。
- (事務局) ・自治基本条例の制定についても中川先生にお願いしている。
- (座長) ・これまでの2年間にわたる委員の皆さんの役割も本日をもって終了となるが、引き続き西脇市政に御理解の深い人材として何らかの形で活躍していただきたいと思う。そこで最後にこれまでの会議を振り返っての感想、あるいは今後の総合計画の推進に向けての思い、また西脇市のまちづくりについて、さらに今日の話題でも出ていた自治基本条例に寄せる抱負など、出席委員の皆様から一言ずつ御発言いただきたい。
- (委員) ・資料も多く、事務局から説明していただくが、短い時間で読み込むのもなかなか大変であった。全体会よりも部会で話をした時の方が、深くいろいろなことが話しすることができたので、今後の会議運営では、部会を充実してもらいたいと思う。今日までありがとうございました。
- (委員) ・2年間みなさんとともに勉強させていただき、ありがとうございました。今日の新聞記事でも水道料金の値上げの記事に関連し、市が市民への説明方法が上手くないということが載っていた。私自身はこうした会議に参加して、水道料金の値上げの経緯なども分かっている。自分の周りの市民にも伝えることができたので、市民会議を通じて自分が一般市民の人との架け橋になれたと思い、自分では満足している。
- ・昨年度は部会などで意見を言い、政策に採用されたものもあったが、今年度はなかなか発言の場があまりなかったので少し寂しく思った。今後自治基本条例の制定など興味深い事項も出てくる中で、任期を終了するのは志半ばに思うが、本当によい勉強をさせてもらった。私自身もこういう場を通して、もっと貢献しなければならぬと思ったので、今後も機会があれば参画したい。本当にみなさんあ

会議の概要（続き）

りがとうございました。

- (委員) ・私はこのような場所に来るような者ではないと感じつつ、委員を受諾したものの後悔しながら来ていたが、会議を重ねてきて、座長が言われたようにようやく分かりかけた頃にお別れとなった。お世話になり、ありがとうございました。
- (委員) ・いろいろなことをこの場で学ばせていただいた。新たな方に勉強していただき、市の施策を分かっているということも非常に大事である。計画策定の市民会議から参加しているが、その時は説明を聞くべきなのか、意見を言うべきなのか、正直自分の立ち位置が分からないこともあった。昨年度からの推進市民会議では自分の意見を言わしてもらおうという立場がよく分かったが、次期の会議からは、事務局が説明する時と、委員から意見をもらう時のメリハリを区別して運営してもらえるようにしていただければと思う。
- (委員) ・策定市民会議から引き続き、長い期間総合計画というものに関わらせていただいた。自分自身の立場も当時は中学校のPTAの役員であり、その立場で意見を述べるが多かったが、今は子どもも中学校を卒業したので、特に何らかの団体に所属した立場ではない。団体を代表した立場の方もおられるこの会議で、自分の発言が個人的意見にならないかを懸念していたが、座長から「委員の発言は市政に意見を反映するフィルター、リトマス試験紙のように思えばよい」と言われたので、そのように捉えて参加してきた。
- ・知人には総合計画推進市民会議の委員を務めているので市政に対する意見があれば自分に伝えてもらえれば、ということを書いてきた。西脇病院のことや学校のことなどで、市民が身近に感じていることをこうした場で伝えられればと思ってきたが、正直荷が重い部分もあった。しかし、委員になって、これまで自分が関心を持たなかった部分にも興味を持つことができたので、多くの方がこうした会議に関わることで、市政に関心を深めていくことができればよいと思う。座長には引き続き西脇市政のために関わっていただきたい。
- (委員) ・市政の大きな核となる総合計画というのは分かっていたが、最後まで抽象的なものが目の前にあるような感じが否めなかった。その中で具体的なものを何かひとつでも見つけてとっていたが、大きなテーマがある中で終わってしまったような気がする。先ほど「やっと分かりかけた頃に終わった」という委員の発言に自分も安堵するところがあった。事務局へのお願いになるが、今後はもう少し委員の数を増やして、私のように市政への関心に芽が出かけているような人をいろんな分野から選んでいってもらえればと思う。
- ・一昨日も地区のまちづくり委員会に参加したが、そうした場では具体的な生活課題が出てくる。そうした会議で具体的な課題を話し合った後、この市民会議に参加するとギャップを感じるが、小さな生活課題の解決に向けては、市民と行政が歩み寄って協力していくことが大切であると実感した。いろいろなことが勉強できてありがたく思う。座長には西脇市とのつながりを幸運に感じてもらい、これからの市政も見届けていただきたいと思う。
- (委員) ・参画と協働についての中川教授の講演を聞き、目からうろこの思いで今日に至っている。会議資料の中から質問であるが、来年度の一般会計の歳入の市税は、市民税や固定資産税、都市計画税が主な税収の主な内容となっているが、新聞記事でも6.7%の減少が見込まれるとあった。そこで、市税の中で固定資産税と都

会議の概要（続き）

市計画税について尋ねる。西脇市は公示価格でも評価額が年々下落しており、時価相場も下がってきている。そうした中で固定資産税や都市計画税は変わりがないものなのか、あわせて市民税などの市税の要諦を知りたい。この市税収入でどのように行政運営が行われるのかは広報でも紹介されることと思うが、市税収入をはじめとした市の歳入と歳出については一般市民にも分かる丁寧な説明が必要であると思うので、今後はそれを願う。

- (座長) ・今の件について事務局から説明を。
- (事務局) ・広報でもそうした周知に努めるが、紙面の都合もあり詳細に掲載することはなかなか難しい部分もある。
- ・市税収入の説明であるが、予算額では来年度52億6800万円あまりを見込んでいる。固定資産税はその半分の26億4500万円となっている。一般的に言うところと財政状況が厳しい団体ほど固定資産税の割合が高くなる傾向にあり、国の地方財政計画においては市町村の固定資産税の税収割合は40%強となっているが、西脇市はそれを超えている。一般に市税収入の豊かな団体は法人市民税や法人の固定資産税の割合が高くなっている。
 - ・評価額が下落する中で、固定資産税があまり下がらない実態については、バブル期など土地の価格が高騰した時に、それに対応して固定資産税を上げると税額が急騰することになるので、段階的に上げていくような措置をとっていた。しかし西脇市の場合、税額が高騰した時点の実態に追いつく前に評価額が下落し始めたため、固定資産税の税額自体はそれほど下がらない。そして来年度予算では、今年度と比較して固定資産税全体では5%の減収を見込んでいる。
 - ・市民税については20億1千万円余りを見込んでおり、うち個人の市民税が17億1900万円、法人の市民税が2億9400万円である。昨年の法人市民税は4億7千万円あまりであるので、37%の大幅な減少を見込んでいる。こうした中、唯一増えているのは軽自動車税であり、1.9%増えているが、これは単純に軽自動車の台数が増えているからであり、税額にして1億1900万円である。都市計画税は固定資産税の上乗せの形で評価額の0.4%（※注：発言どおり。実際は0.3%）を都市計画上の市街化区域に課税している目的税である。目的税というのは、その用途が限られているもので、都市計画区域での道路や下水道の整備などに充てられるものである。
- (委員) ・会議に参加して多くのことを勉強させていただいたが、今感じることは本日配布された行動計画の内容が着実に実現されていくためには、市民の意識も大事であるということだ。市民ひとり一人が道路や病院の整備に対して、安心や安全が実感できるような推進方法を行っていくことが、行政では大事ではないかと感じる。市民会議に参加して、他の市町村の施設に見学に行っても、事業額など数字の面で関心が湧くようになった。予算や事業の課題について、これまでとは異なり、焦点化して質問できるようになったのが私個人としての変化である。いろいろな場面で、市のことを勉強するのが市民としても大事だと感じた。よい機会を与えていただき、ありがたく感じている。
- (委員) ・合併協議会の委員をしていた流れで、これまで委員として関わっている。会議では事務局の方々に資料を丁寧に作成していただいたおかげで、私のような素人にも理解できたと思う。会議の資料が届くと、開封するのをためらいながらも、勉

会議の概要（続き）

強しなければならぬという思いがいつもあった。周りの人の意見を吸い上げてここで発言するという役割を担っているわけだが、それが十分にできなかったのは申し訳なかったと思う。さきほど委員も言われたように、多くの人がこうした会議に参加することで、もっと市のことを理解できる人が増えるのではないかと考えた。そしてアンケートの回収結果などを見させていただいて、ある程度意識が高い人が回答しているとは思いますが、市民のまちづくりに対する意識の高さというものに正直驚いた。そうした市民意識の高い人も多いので、市のホームページの強化やパブリック・コメント制度の導入なども行われるようであるが、市民と行政の協働体制がより一層進むことを願う。座長の時には刺激的な発言も、私たち自身の心にも響いたので、座長には今後もよろしくお願ひしたい。

(委員) ・ 2年前の市の広報を見て応募し、この場にいるが、全く分からずに参加して、どんなことを発言していいのか分からないまま2年が過ぎてしまった。ゼロからのスタートで何が勉強になったのか具体的には言えないが、何かしら自分の中には残ったような気がする。今後もこうした会議などに参加していけたらと思う。

(委員) ・ 2年間多くのことを勉強させていただき、ありがたく思う。私は子育て支援サークルの代表をしているが、来年度の主要事業の中でも子育て支援に力が入れているので、本当にありがたく思う。まちづくり指標でも「地域で安心して子育てが安心してできると感じる市民の割合」も年々増えてきている。若い母親と接する機会が多いが、西脇市が子育てしやすいまちになってほしいとか、子育てするなら西脇市にというまちになって欲しいという意見も多く聞いた。これからも子育て支援に力を入れていただきたいと思う。そして座長にはこれからも西脇市のためにご指導願ひたい。

(委員) ・ 座長のことを尊敬している。ただ座長の下で仕事をする事務局も悪い意味ではなく、なかなか大変であったと思う。引き続き座長には西脇市のことをお願いしたい。

(座長) ・ 委員の皆さんから励ましの言葉もいただきありがたい。皆様のご期待を裏切らないように、そうした機会があれば、引き続き頑張らせていただきたいと思う。

・ 何人かの委員のあいさつを聞いて、こうした市民会議は、市民参画の場だけではなく、経営者を育てる場、自治体の経営感覚、優れた経営能力を持った市民を育てる場であることをあらためて実感させてもらった。こういう感覚を持った人を増やしていき、市民の中で比率を増やしていくことが大事である。構成委員の人数を増やしたらよいというのは、もっともな意見であると思う。そういう意識は当然事務局も持っており、一生懸命頑張っていることも委員には御理解いただいていると思う。委員の皆さんはこれで終わったのではなく、鍛えられた御見識をいろんな場面で活用していただけるよう私も願っている。

・ 私はまち歩きが好きなので、いつも風景を楽しみながら来ている。西脇のまちの中でひょっとしたら出会うこともあるかもしれないが、その時には遠慮なくお声かけいただければと思う。最後に市長から御見解があれば一言いただきたい。

(市長) ・ この委員の中ではじめて知った人もいるが、多くの人とどこかの場で顔を合わせたことがあり、本当によいメンバーに集まってもらったと当初から思っていた。自由に発言できる場ということになれば不十分であったかもしれないが、こうした思いを持つ人を増やしていければ、さまざまな場面で活躍していただけると思

会議の概要（続き）

う。この市民会議はこれで終了となるが、これまでの地域の中でのつながりや暮らしは一切変わるものではないので、今後ともよろしくをお願いしたい。また、事務局からも発言があったように委員の再任は妨げないとなっているので、次期も続けていただければありがたいと思っている。本当にお世話になり、ありがとうございました。

（座長）・それではこれをもって、2年にわたる総合計画推進市民会議を終えたいと思う。本当にお疲れ様でした。